

Q&A コーナー

Q. 最近「神のみ旨によって」という言葉をよく使う人がいるのですが、よくわかりません。どういうことでしょうか。具体的に教えてください。

A. 最近だけではなく、いつの時代も「神のみ旨によって」とはよく言われるものです。「摂理」といったりもします。「神の望み」とか「神の思い」、「神のみこころ」ともいいます。つまり、何かあった時や、何かをするときの理由として使うときに「これは神のみ旨です」と言ったりするのです。

しかし、この言葉や考え方には注意しなければならぬと思います。なぜなら、知らないうちに「自分の思い」を「神の思い」にすり替えてしまっただけで、気づかないことがあるからです。時として、意識的に使うこともあるかも知れません。

ノーベル平和賞の候補者に五回もなったマハトマ・ガンジー。インドの独立の父と呼ばれた彼は多くのすばらしい

言葉を残していますが、次の言葉は強い警告として響いてきます。

「ヨーロッパは、神の、あるいはキリスト教の精神を代表していない。むしろ、サタンの精神を表している、というのは私の堅い信念である。そしてサタンの成功が最大のものとなるのは、その口に神の名をのせて現れるときである。」

具体的に考えてみましょう。たとえばよく聞く表現に「神の望まれる教会」というのがあります。どのようにして「神の望まれる」ことがわかるのでしょうか。

まず、神の言葉に耳を傾けなければ神の望みを知ることができないでしょう。神の言葉は、聖書によって伝えられています。聖霊の導きのうちに聖書の言葉に耳を傾けなければなりません。「聖書を知らないことはキリストを知らない」といわれるゆえんです。

また、イエスが教えてくださいましたように、父である神のみ旨、思い、望み、みこころを求めて祈ることです。この祈りの中で神の望みが明らかにされます。イエスご自身「私の

願いどおりではなく、みこころのままに。」と受難の前にゲツセマネで祈っています。受胎告知のときのマリアの言葉もそうでした。「お言葉どおり、この身に成りますように」と。マリアの望みではなく。

「これが神の望みである」と簡単にいうことはできません。神の望みであるためには、聖霊の導きによる祈りに裏打ちされたものでなければなりません。命をかけるほど真剣で

慎重で、そして謙虚なことなのです。

「自分の望み」を「神の望み」にすり替えるようなことはけっしてあってはなりません。歴史を振り返るとき教会は大きな過ちをおかしてきました。それはガンジーが言っているように「神の名」の元に「自分の思い」を実現させようとしたからでした。

「神の望み」…この表現は権威や権力と微妙にからんでい

ます。「神の名」の元に権力が使われるとき、それが聖霊の導きによるものであるか、主の祈りの中で示されたものなのか問われるでしょう。そして、それが真に「神の望み」であったかどうかは、愛の実りというかたちで証明されるでしょう。

自分が、自分がという思いがあるところでは「神の望み」は実現しないのです。

(行橋教会・山元眞神父)